

学生生活実態調査報告書

(概要版)

2014年版

北海道大学学務部

【目次】

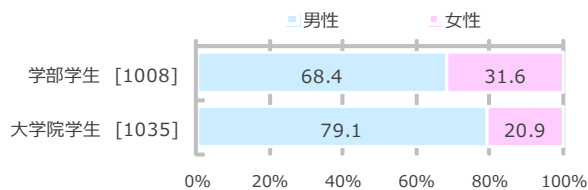
A 回答者の基本的特徴 2	
回答者の男女比 入学までの年数 年齢	
B 家庭状況 2	
出身地 家計支持者 家計支持者の職業 家庭の年間総年収	
C 住居・通学・食事の状況 3	
住居形態／占有面積 入寮希望とその理由 通学方法／通学時間 食事 学食の利用状況	
D 経済状況 5	
月間収入額の分布 収入の内訳（月額） 月間支出額の分布 支出の内訳（月額） 年間の研究旅費 経済状態の実感	
E アルバイトの状況 7	
アルバイトの頻度 アルバイトの職種 アルバイトの週平均就労時間 アルバイト収入の使いみち アルバイトをする理由／アルバイトをしない理由	
F 授業料免除と奨学金の利用状況 9	
授業料免除の状況 奨学金の利用状況／奨学金の種類 日本学術振興会特別研究員の給与	
G-I 課外活動とボランティア 10	
課外活動団体への加入の有無／課外活動の週平均活動時間 ボランティア活動の経験の有無／ボランティア活動内容 ボランティア活動相談室の認知利用状況	
G-II 大学院学生の研究活動 12	
所属学会数 研究会・学会等の発表回数 論文執筆数 外国語の能力 海外での調査研究経験 海外留学の経験 海外留学の意向／希望する留学期間 研究・学業を進める上で大学に要望すること	
H 北大の学生生活 14	
学生生活の満足度 一日の平均自習時間 自習を行う場所 入学後の学習・研究意欲 授業への出席率 大学で過ごす一日の平均時間 仲の良い友達の有無 友人との関係 教員との関係 アカデミック・サポートセンターの認知利用状況 大学院入学の目的 北大大学院を志望した理由 北大大学院の進学時の志望順位 大学院入学前の出身大学等	
I 健康状態 19	
身体の調子／通院状況 悩み・不安 カウンセリングサービスの認知状況	
J ハラスメント及びカルト宗教団体等の被害状況 21	
自身のハラスメント等の被害経験／ 他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験 学生相談窓口の認知状況	
K 進路の希望 22	
卒業後の進路希望／修了後の進路希望 博士後期課程に進学しない理由 希望職種 就職で重要視すること 就職希望地域 インターンシップ参加経験 キャリアセンター利用状況	

学生生活実態調査とは、本学学生の生活実態や本学に対する期待・要望などを把握し、学生の生活・修学・進路などの支援体制の充実に資するため基礎資料を得るとともに、入学前の学生への広報活動に活用することを目的として、4年に1回実施されているものです。この報告書は、平成25年11月～12月に実施された調査結果をとりまとめたものです。

A 回答者の基本的特徴

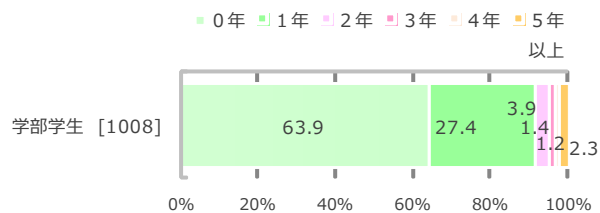
■ 回答者の男女比

- 学部学生の回答者は、「男性」(68.4%)、「女性」(31.6%)である。
- 大学院学生の回答者は、「男性」(79.1%)、「女性」(20.9%)である。



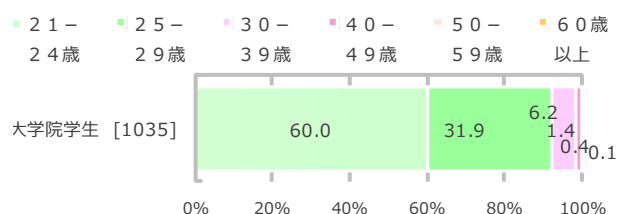
■ 入学までの年数 (学部学生のみ)

- 現役入学者(「0年」)比率は、63.9%である。



■ 年齢 (大学院学生のみ)

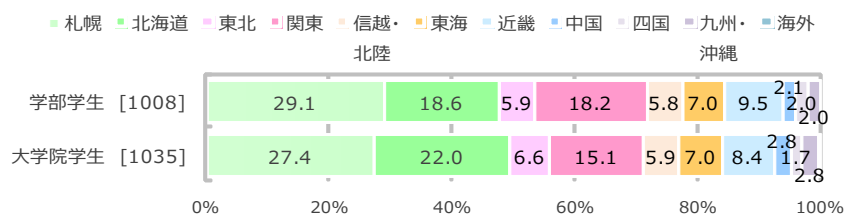
- 年齢は、「21-24歳」が60.0%であり、「25-29歳」(31.9%)を合算した20代の学生は、91.9%を占める。



B 家庭状況

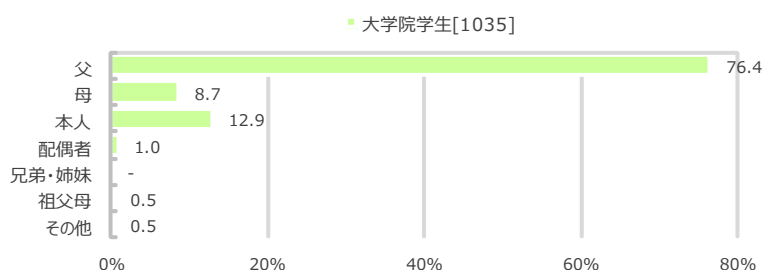
■ 出身地

- 学部学生の「札幌」出身者は、29.1%、札幌を含む道内出身者は 47.7%である。道内出身者に次いで多いのは、「関東」(18.2%)である。
- 大学院学生は、「札幌」出身者が27.4%、また札幌を含む道内出身者は49.4%である。道内出身者に次いで多いのは、学部学生と同じく「関東」(15.1%)である。



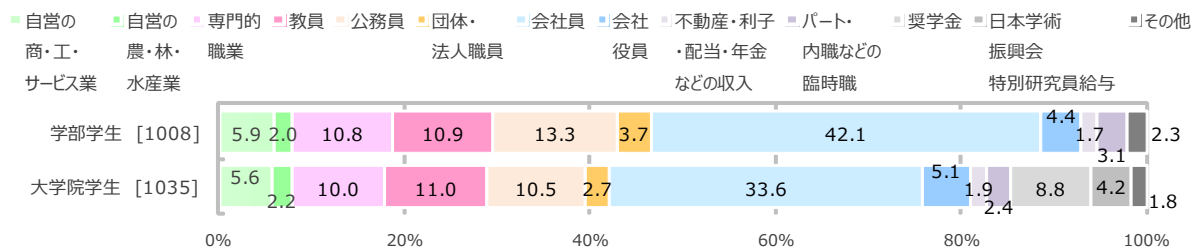
■ 家計支持者 (大学院学生のみ)

- 家計支持者は、「父」が76.4%と最も多い。次いで、「本人」が12.9%、「母」が、8.7%である。



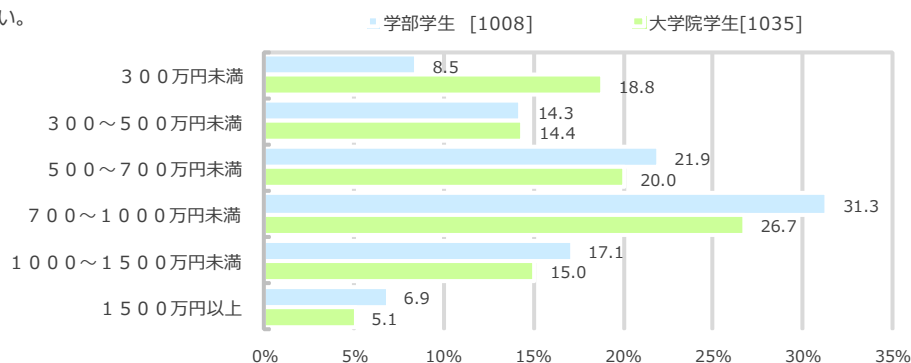
■ 家計支持者の職業

- 学部学生・大学院学生ともに、家計支持者の職業は、「会社員」が最も多く、次いで「公務員」、「教員」、「専門的職業」が1割台となっている。



■ 家庭の年間総年収

- 家庭の年間総収入は、学部学生・大学院学生ともに、「700～1000万円未満」が最も多く、次に「500～700万円未満」が多い。

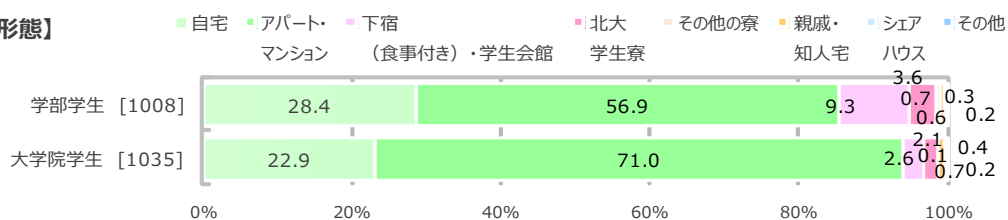


C 住居・通学・食事の状況

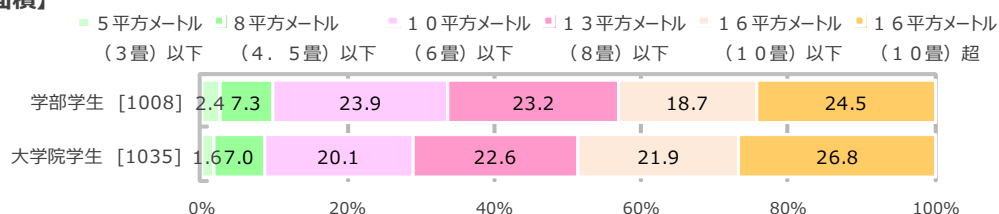
■ 住居形態／占有面積

- 学部学生・大学院学生ともに「アパート・マンション」が最も多く、次いで「自宅」となっている。学部学生と大学院学生を比較すると、「自宅」は学部学生の方が多く、「アパート・マンション」は大学院生の方が多い。また、学部学生は「北大学生寮」が1割程度を占める。
- 占有面積は、学部学生・大学院学生ともに「16平方メートル(10畳)超」が最も多い。

【住居形態】



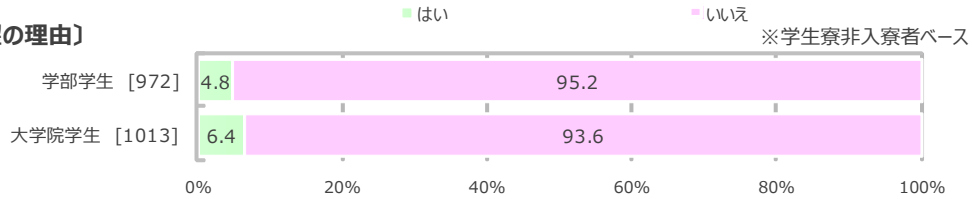
【占有面積】



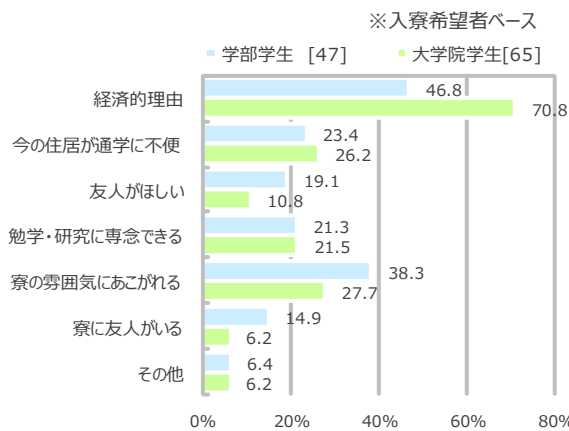
■ 入寮希望とその理由

- 学部学生で入寮希望があるのは4.8%、大学院学生は6.4%である。
- 入寮を希望する理由は、学部学生・大学院学生ともに「経済的な理由」が最も多い。
- 入寮を希望しない理由は、学部学生・大学院学生ともに「集団生活がわずらわしい」が最も多い。

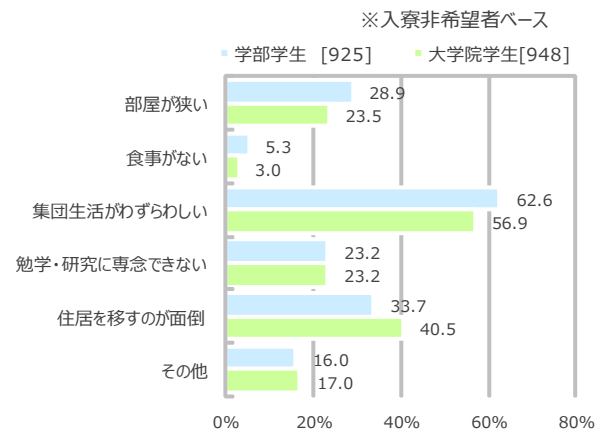
【入寮希望の理由】



【入寮を希望する理由】



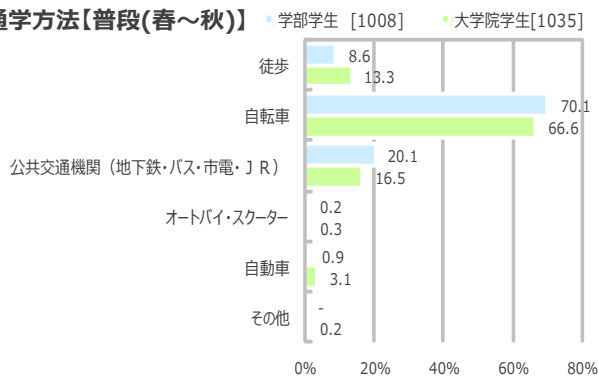
【入寮を希望しない理由】



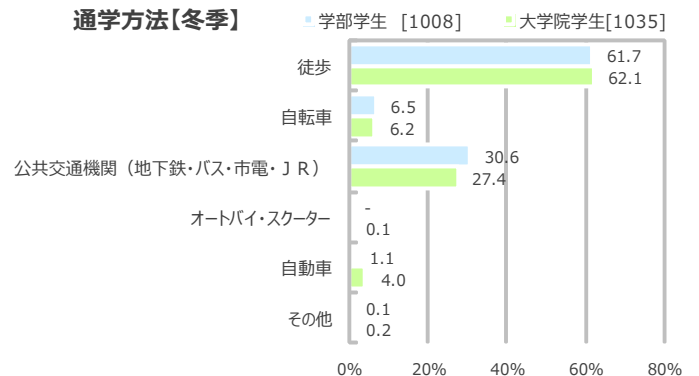
■ 通学方法／通学時間

- 春から秋の通学方法は、学部学生・大学院学生ともに「自転車」通学者が圧倒的に多い。次いで「公共交通機関」である。
通学時間は、学部学生・大学院学生ともに「10分未満」が4割強で最も多い。
- 冬季の通学方法は、学部学生・大学院学生ともに「徒歩」が圧倒的に多い。次いで「公共交通機関」である。
通学時間は、学部学生・大学院学生ともに「10～20分未満」が3割台半ばで最も多い。

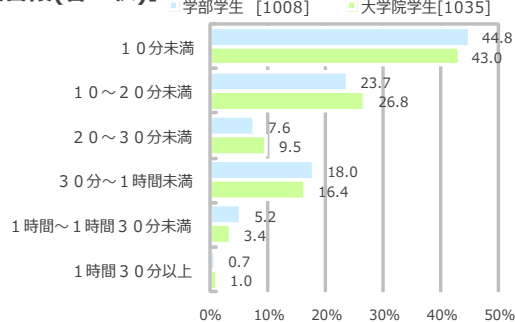
通学方法【普段(春～秋)】



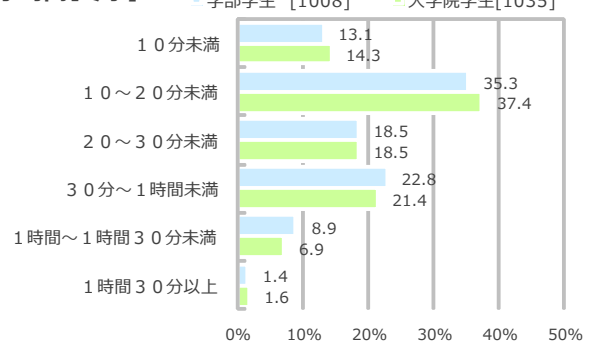
通学方法【冬季】



通学時間【普段(春～秋)】

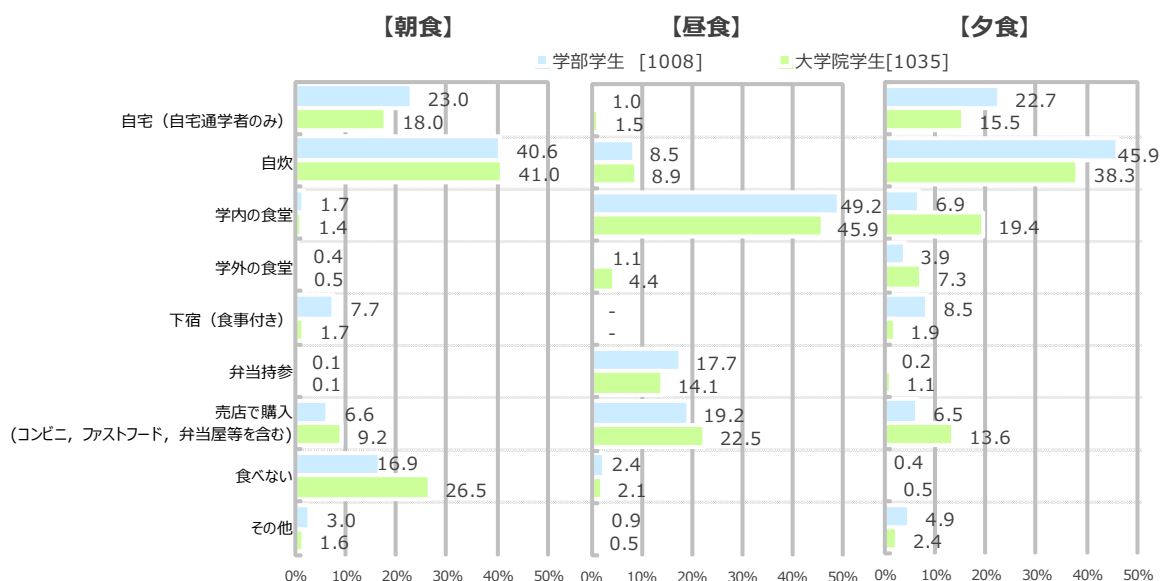


通学時間【冬季】



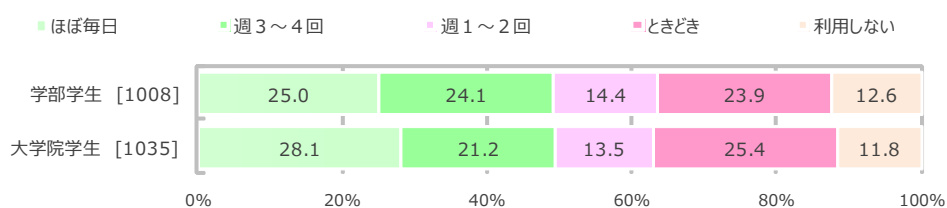
■ 食事

- 学部学生・大学院学生ともに、朝食を「自炊」している学生は約 4 割。「自宅」を含めると、学部学生で 63.6%、大学院学生で 59.0%となる。一方「食べない」学生は、学部学生が 16.9%、大学院学生が 26.5%である。
- 昼食は、学部学生・大学院学生ともに「学内の食堂」が 4 割台で最も多い。次いで「売店で購入」が多い。
- 夕食は、学部学生・大学院学生とも「自炊」が最も多い(学部学生:45.9%、大学院学生:38.3%)。学部学生では次に「自宅」が多く、大学院学生では「学内の食堂」が多い。



■ 学食の利用状況

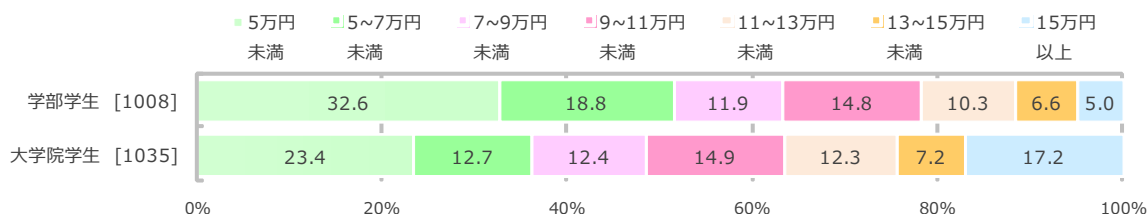
- 学食の利用状況は、学部学生・大学院学生ともに「ほぼ毎日」が四分の一以上。また「週 3~4 回」を含めると約半数の学生が頻繁に利用している。一方「利用しない」学生も、学部学生・大学院学生ともに 1 割強みられる。



D 経済状況

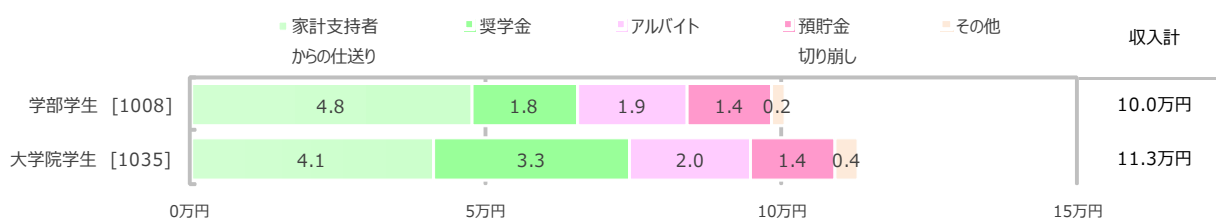
■ 月間収入額の分布

- 学部学生・大学院学生を比較すると、「5 万円未満~7 万円未満」では、学部学生の占める割合が高く、「7~9 万円未満」以降では、大学院学生の方が高くなる傾向がある。



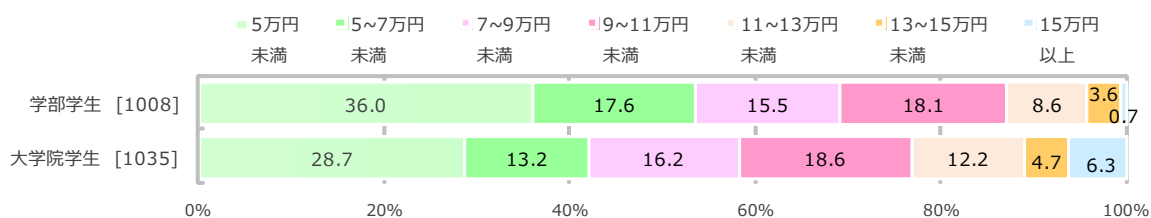
■ 収入の内訳（月額）

- 平均月間収入額は、学部学生が10.0万円。大学院学生が11.3万円である。
- 学部学生・大学院学生のどちらも「家計支持者からの仕送り」が最大の収入項目である。
- 大学院学生は、学部学生に比べ「奨学金」の貸与がやや多い。



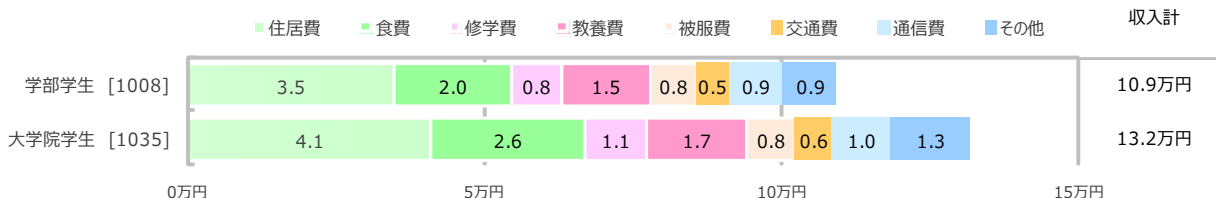
■ 月間支出額の分布

- 学部学生の月間支出額は、「5万円未満」が36.0%、「5~7万円未満」17.6%、「7~9万円未満」15.5%である。
- 大学院学生では、「5万円未満」が28.7%、「5~7万円未満」13.2%、「7~9万円未満」16.2%である。



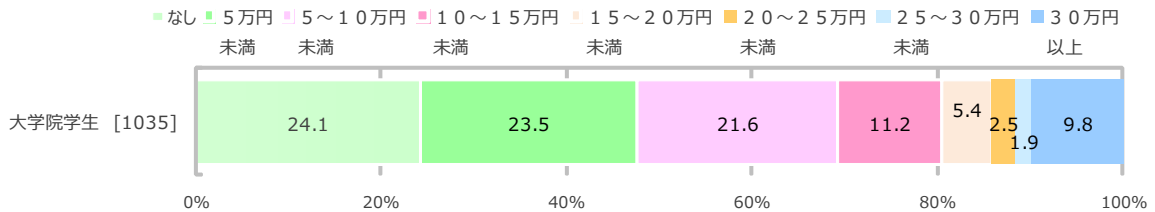
■ 支出の内訳（月額）

- 平均月間支出額は、学部学生で10.9万円、大学院学生で13.2万円である。
- 学部学生・大学院学生ともに「住居費」が最大支出項目で、次いで「食費」となっている。



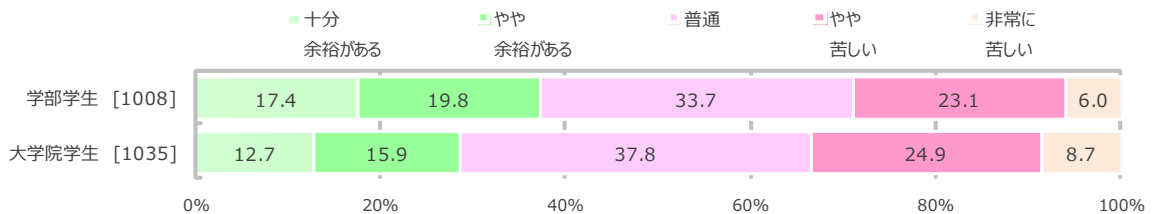
■ 年間の研究旅費（大学院学生のみ）

- 「5万円未満」が23.5%、「5～10万円未満」が21.6%であり、「5～10万円未満」で45.1%を占める。一方「なし」は、約4人に1人(24.1%)である。



■ 経済状態の実感

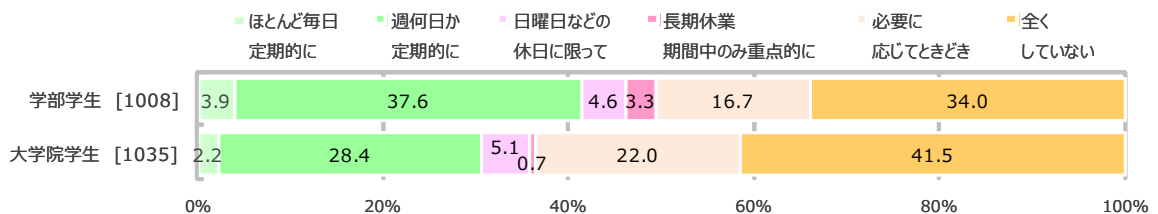
- 現在の経済状態は、学部学生で「十分余裕がある」が17.4%、「やや余裕がある」が19.8%で、合わせると「余裕がある」の割合は37.2%である。
- 大学院学生は、「十分余裕がある」が12.7%、「やや余裕がある」が15.9%で、合わせると「余裕がある」の割合は28.6%である。
- 学部学生に比べ、大学院学生は、「苦しい」の占める割合がやや大きい。



E アルバイトの状況

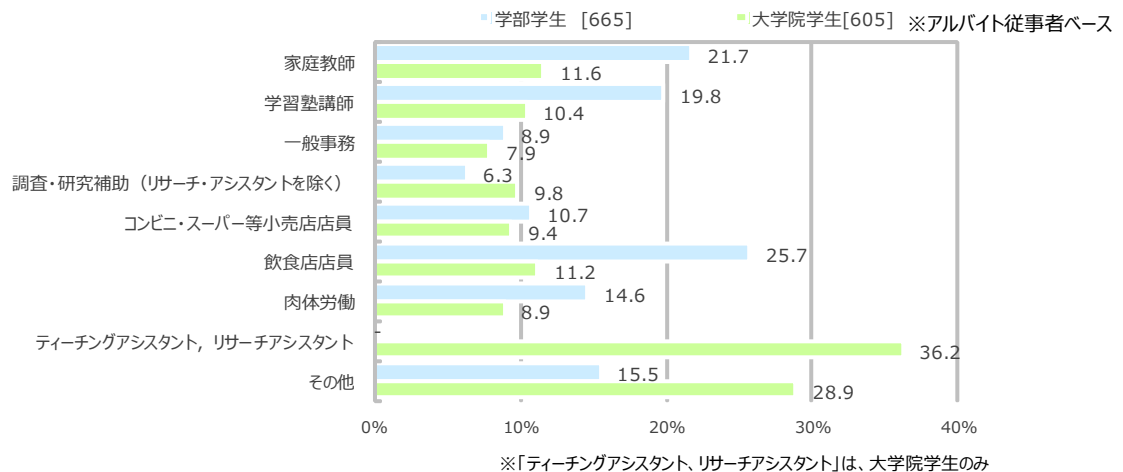
■ アルバイトの頻度

- アルバイトを「全くしていない」学生は、学部学生で34.0%、大学院学生で41.5%である。一方、アルバイトをしている学生は、学部学生で66.0%、大学院学生で58.5%である。そのうち「週何日か定期的に」が学部学生（37.6%）、大学院学生（28.4%）ともに最も多い。



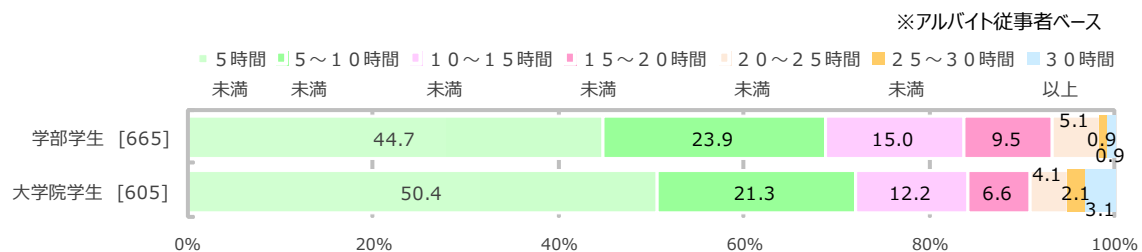
■ アルバイトの職種

- 学部学生は「飲食店員」（25.7%）、大学院学生は「ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント」（36.2%）が最も多い。
- 学部学生は、飲食店員に続く職種は「家庭教師」、「学習塾講師」である。
- 大学院学生は、ティーチングアシスタント、リサーチアシスタントに続く職業は「家庭教師」、「飲食店員」、「学習塾講師」であるが、いずれも1割台に留まる。



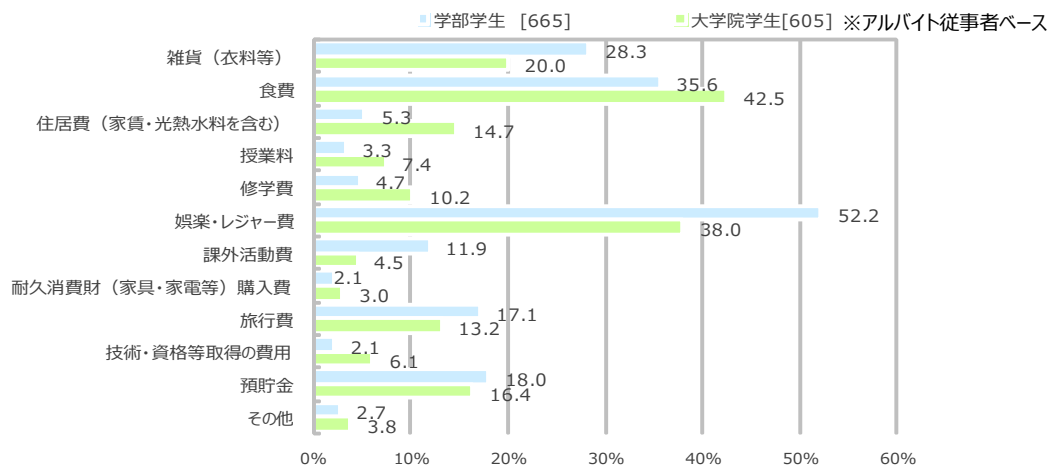
■ アルバイトの週平均就労時間

- 学部学生・大学院学生ともに「5時間未満」が最も多く、次に「5～10時間未満」が多い。



■ アルバイト収入の使いみち

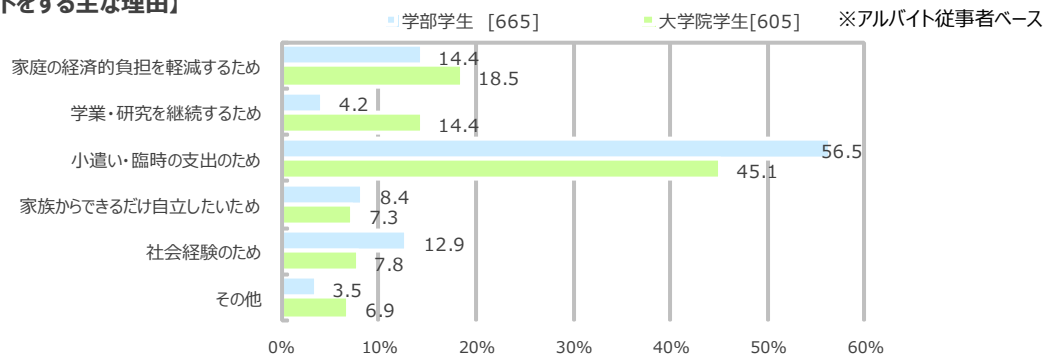
- 学部学生は、「娯楽・レジャー費」（52.2%）が最も多く、次に「食費」（35.6%）、「衣料・雑貨等」（28.3%）が続く。
- 大学院学生は、「食費」（42.5%）が最も多く、次に「娯楽・レジャー」（38.0%）、「衣料・雑貨等」（20.0%）が続く。
- 学部学生・大学院学生ともに「預貯金」に充てる学生は2割弱程度。「授業料」や「修学費」は1割程度に留まる。



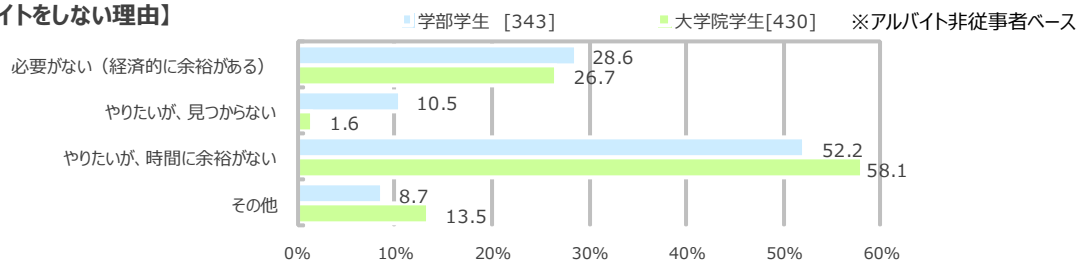
■ アルバイトをする理由／アルバイトをしない理由

- アルバイトをする理由は、「小遣い・臨時の支出のため」が、学部学生（56.5%）、大学院学生（45.1%）ともに最も多い。
- 学部学生では、次に「家庭の経済的負担を軽減するため」（14.4%）、「社会経験」（12.9%）が続く。
- 大学院学生では、次に「家庭の経済的負担を軽減するため」（18.5%）が続き、その後「学業・研究を継続するため」（14.4%）が、学部学生に1割程度の差をつけて続く。
- アルバイトをしない理由は、学部学生・大学院学生ともに「時間に余裕がない」が最も多く、次に「必要がない」が続く。

【アルバイトをする主な理由】



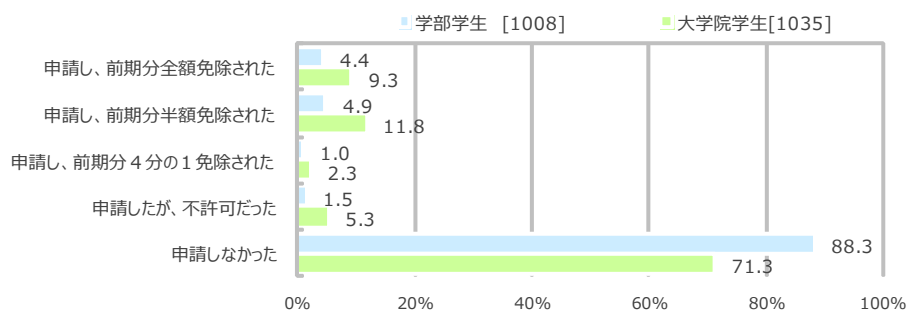
【アルバイトをしない理由】



F 授業料免除と奨学金の利用状況

■ 授業料免除の状況

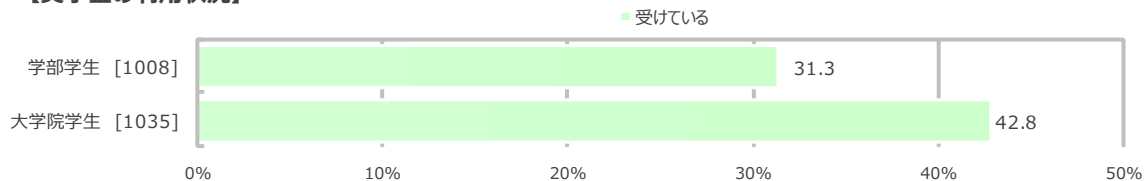
- 授業料免除を「申請しなかった」学生は、学部学生で 88.3%、大学院学生で 71.3%。大学院学生では「前期分全額免除」（9.3%）、「前期分半額免除」（11.8%）が各1割前後を占める。



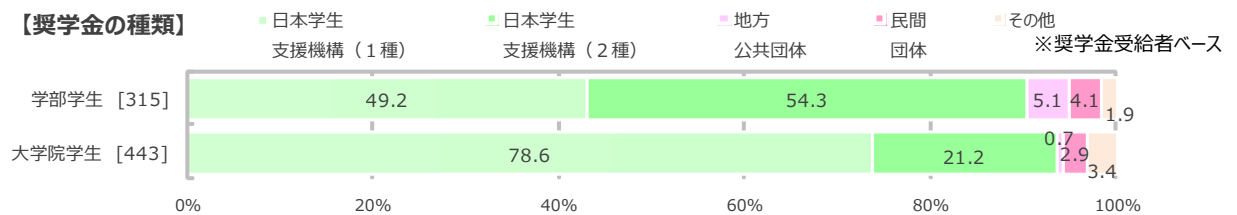
■ 奨学金の利用状況／奨学金の種類

- 奨学金を利用している学生は、学部学生で 31.3%、大学院学生で 42.8%である。
- 奨学金の種類は、学部学生は「日本学生支援機構（1種）」が 49.2%、「日本学生支援機構（2種）」が 54.3%であり、大学院学生は「日本学生支援機構（1種）」が 78.6%、「日本学生支援機構（2種）」が 21.2%である。

【奨学金の利用状況】

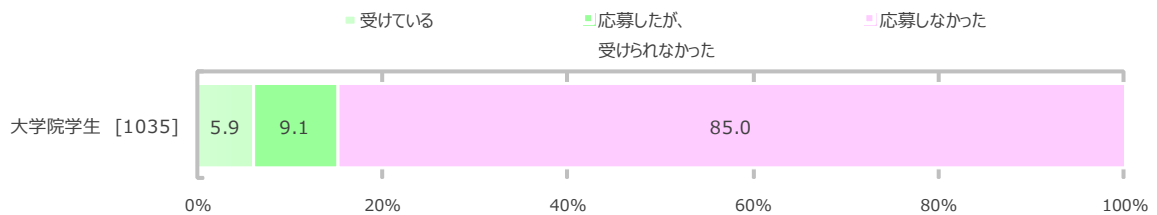


【奨学金の種類】



■ 日本学術振興会特別研究員の給与（大学院学生のみ）

- 日本学術振興会特別研究員の給与を、「受けている」学生は 5.9%であり、「応募しなかった」が 85.0%と大半を占める。

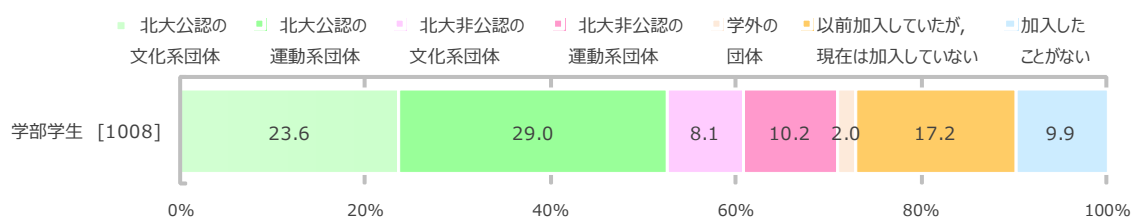


G-I 課外活動とボランティア（学部学生のみ）

■ 課外活動団体への加入の有無／課外活動の週平均活動時間（学部学生のみ）

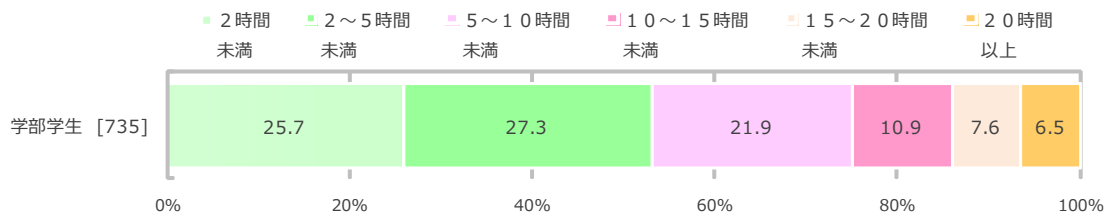
- 現在、何らかの団体に所属し活動している学生は 72.9%で、「北大公認の運動系団体」（29.0%）が最も多い。次に「北大公認の文科系団体」（23.6%）が続く。
- 課外活動の週平均活動時間は、「2 時間未満」（25.7%）、「2～5 時間未満」（27.3%）を合わせて「5 時間未満」が 5 割以上を占める。

【課外活動の加入有無】



【課外活動の週平均活動時間】

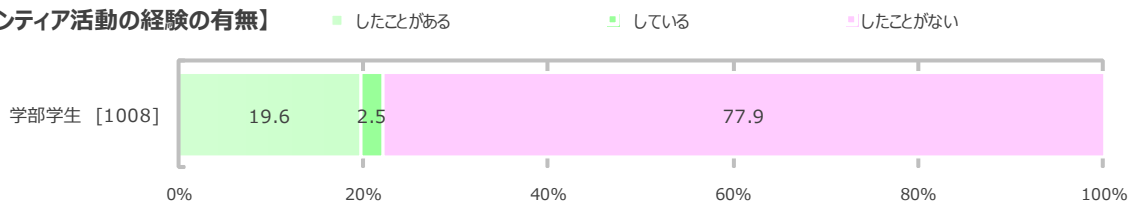
※課外活動団体加入者ベース



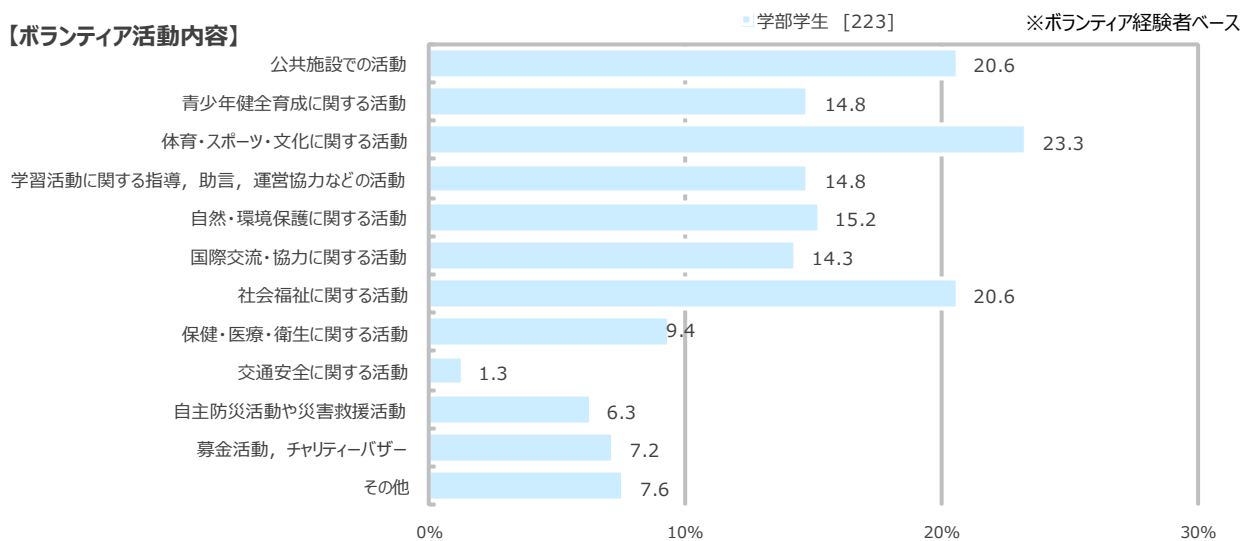
■ ボランティア活動の経験の有無／ボランティア活動内容（学部学生のみ）

- ボランティア活動を「している」学生は 2.5%。過去に「したことがある」学生は 19.6%で、合わせて 2 割強がボランティア経験者である。
- 活動内容は、「体育・スポーツ・文化に関する活動」、「公共施設での活動」、「社会福祉に関する活動」がそれぞれ 2 割強が多い。

【ボランティア活動の経験の有無】

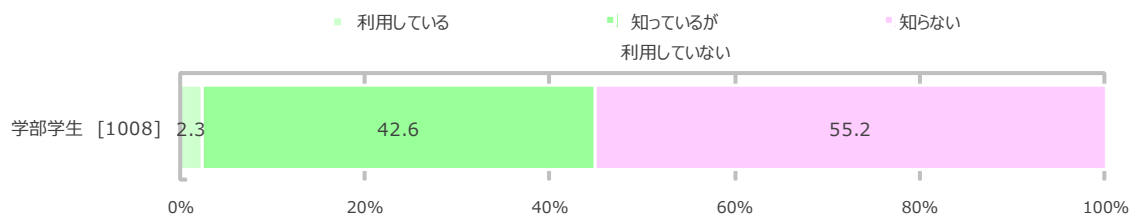


【ボランティア活動内容】



■ ボランティア活動相談室の認知利用状況（学部学生のみ）

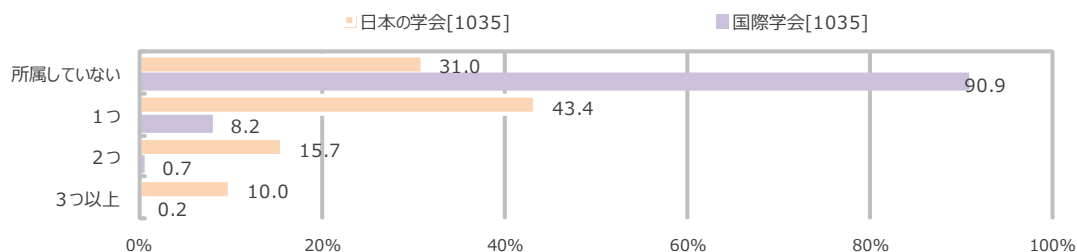
- ボランティア活動相談室を、現在「利用している」学生は 2.3%に留まるが、「知っているが利用していない」学生を含めると、認知率は 44.9%と半数弱になる。



G-II 大学院学生の研究活動 (大学院学生のみ)

■ 所属学会数 (大学院学生のみ)

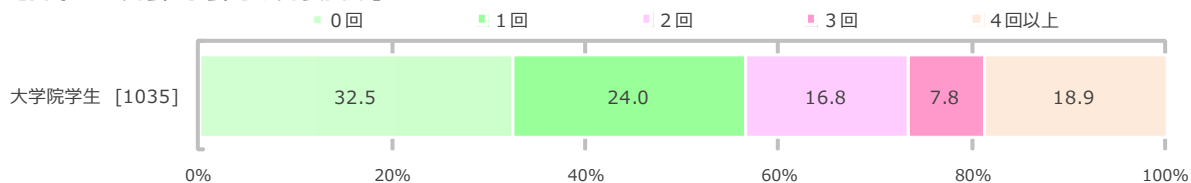
- 「日本の学会」に所属している学生は69.0%で、「国際学会」に所属している学生は1割未満に留まる。



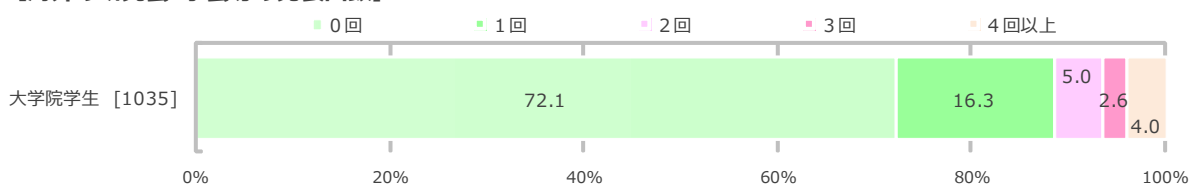
■ 研究会・学会等の発表回数 (大学院学生のみ)

- 日本の研究会・学会等において、大学院学生の67.5%が発表経験があり、その回数は「1回」(24.0%)が中心となるが、「4回以上」も18.9%ある。
- 海外においては、27.9%の学生が発表経験があり、回数は「1回」(16.3%)が最も多い。

【日本の研究会・学会等の発表回数】

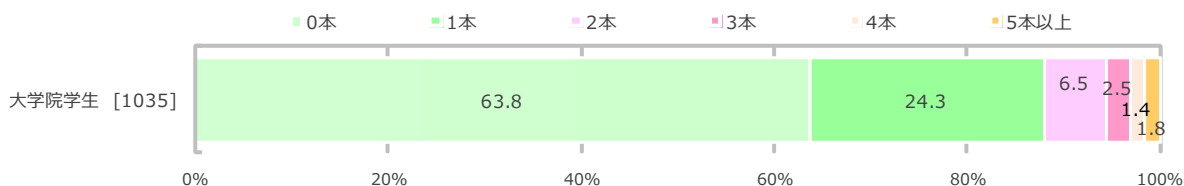


【海外の研究会・学会等の発表回数】



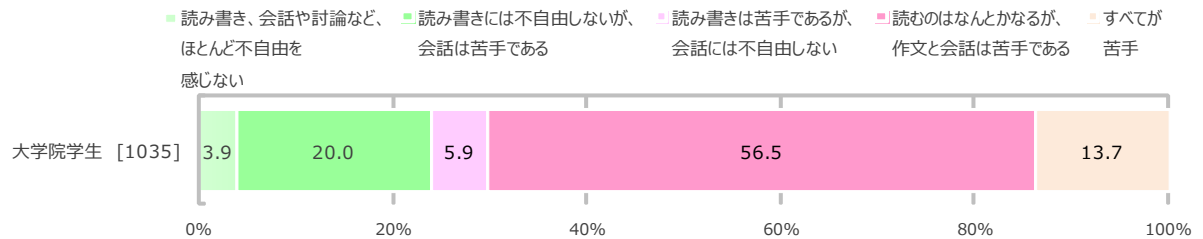
■ 論文執筆数 (大学院学生のみ)

- 論文執筆数は、「1本」(24.3%)が最も多い。



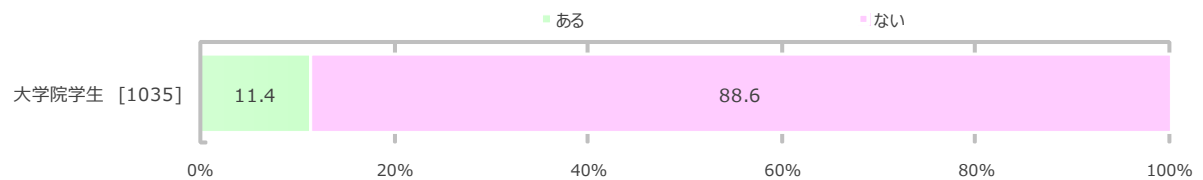
■ 外国語の能力（大学院学生のみ）

- 外国語能力は、「読むのはなんとかなるが、作文と会話が苦手である」が 56.5%と半数以上を占め、次に「読み書きには不自由しないが、会話は苦手である」が 20.0%、「すべてが苦手」が 13.7%となっている。



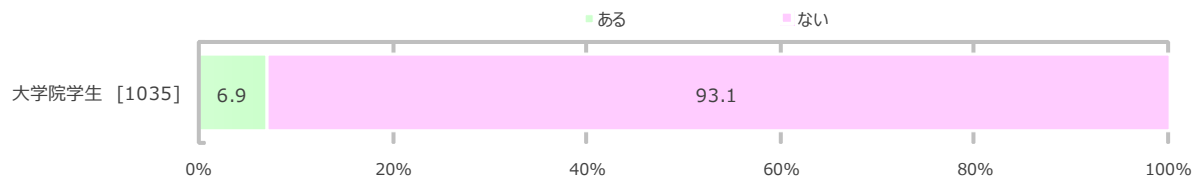
■ 海外での調査研究経験（大学院学生のみ）

- 海外での調査研究経験が「ある」学生は 11.4%である。



■ 海外留学の経験（大学院学生のみ）

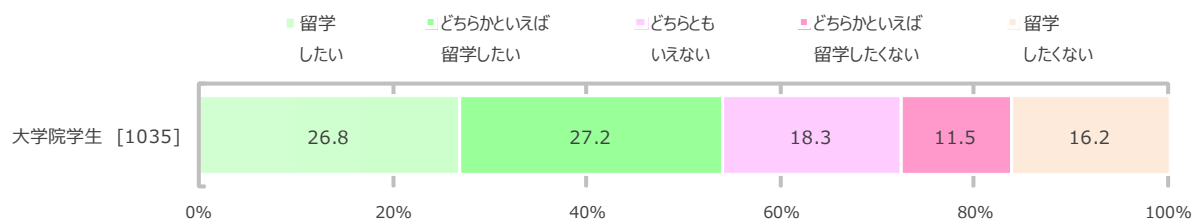
- 海外留学の経験が「ある」学生は 6.9%である。



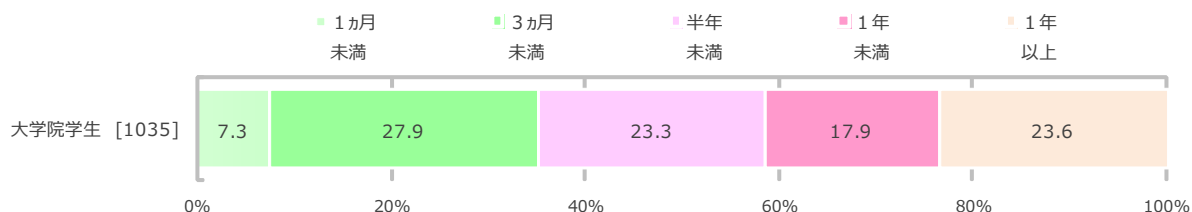
■ 海外留学の意向／希望する留学期間（大学院学生のみ）

- 「留学したい」学生は 26.8%。「どちらかといえば留学したい」（27.2%）学生を含めると 54.0%と半数以上である。
- また、希望する留学期間は「3 カ月未満」（27.9%）が最も多く、「1 年以上」（23.6%）、「半年未満」（23.3%）が 2 割強で続く。

【海外留学の意向】

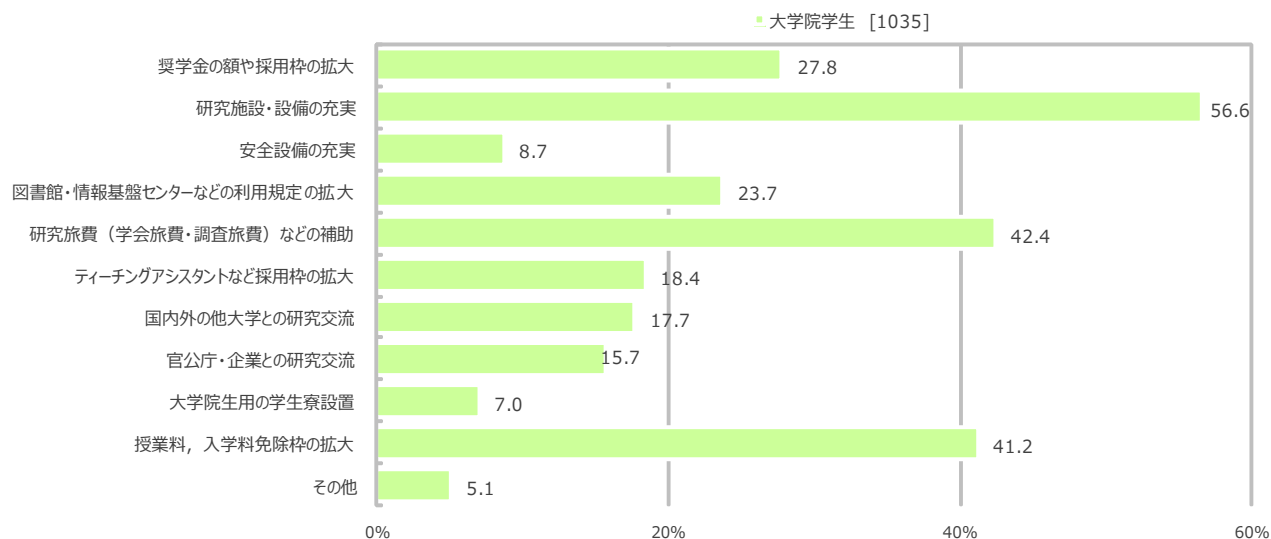


【希望する留学期間】



■ 研究・学業を進める上で大学に要望すること（大学院学生のみ）

- 研究・学業を進める上で大学に要望することは、「研究施設・設備の充実」が 56.6%で最も多く、次に「研究旅費などの補助」(42.4%)、「授業料、入学金免除枠の拡大」(41.2%) が 4 割強で続く。



H 北大の学生生活

■ 学生生活の満足度

- 平均満足度は、学部学生・大学院学生ともに 3.6 点（最大 5 点満点）である。

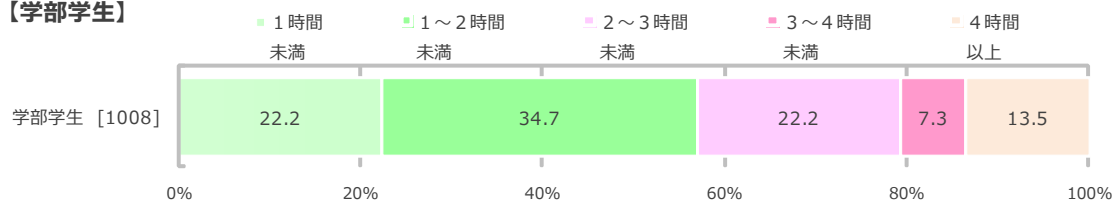
	授業	教育研究用施設・設備	その他の施設・設備	北大・札幌の生活環境	食堂・売店等のサービス	図書館	教員との関係	窓口の対応	平均満足度
学部学生 [1008]	3.5	3.7	3.6	4.2	3.5	4.0	3.4	3.1	3.6
大学院学生 [1035]	3.5	3.7	3.5	4.2	3.4	3.8	3.9	3.1	3.6

注) 単位：加重平均の算出は、5：満足 4：まあまあ満足 3：普通 2：少し不満 1：不満

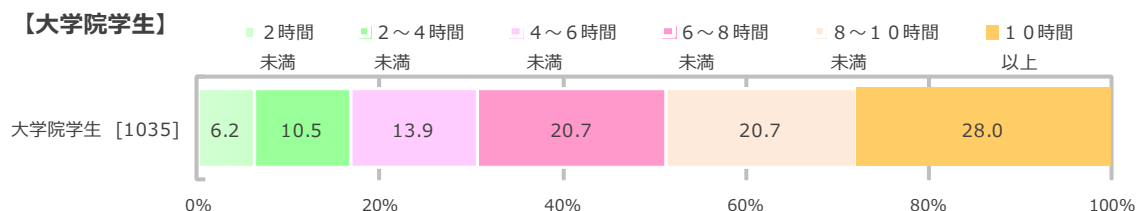
■ 一日の平均自習時間

- 学部学生の一日の平均自習時間は、「1～2 時間未満」が 34.7%と最も多く、次に「1 時間未満」、「2～3 時間未満」が 22.2%（同率）となっている。
- 大学院学生は、「10 時間以上」が 28.0%で最も多く、次に「6～8 時間未満」、「8～10 時間未満」が 20.7%（同率）となっている。

【学部学生】

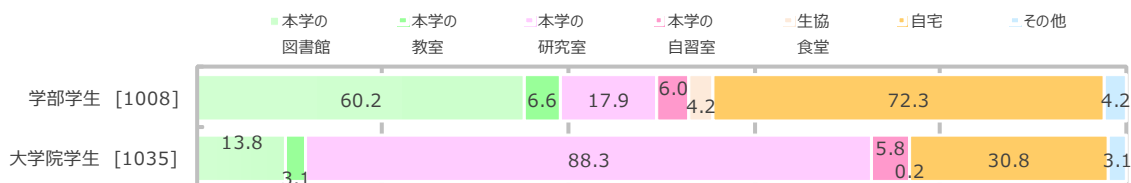


【大学院学生】



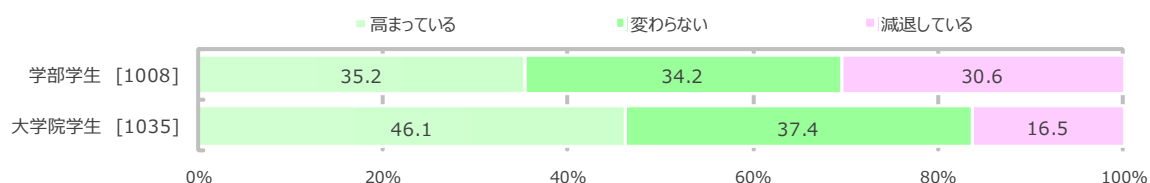
■ 自習を行う場所

- 自習を行う場所については、学部学生は「自宅」(72.3%) が最も多く、次に「本学の図書館」(60.2%) が多い。
- 大学院学生は、「本学の研究室」(88.3%) が最も多く、次に「自宅」(30.8%) が多い。



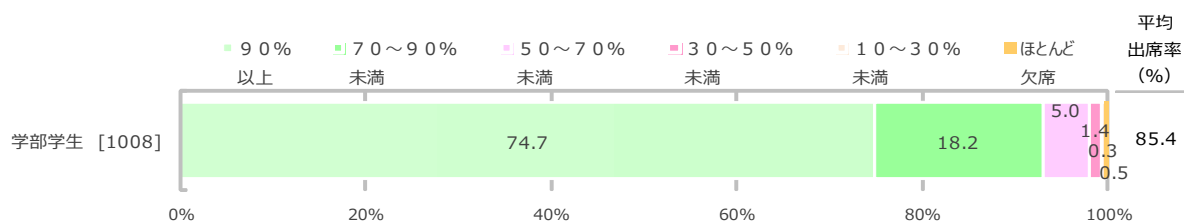
■ 入学後の学習・研究意欲

- 入学後、学習意欲が「高まっている」学生は、学部学生の 35.2%、大学院学生の 46.1%である。



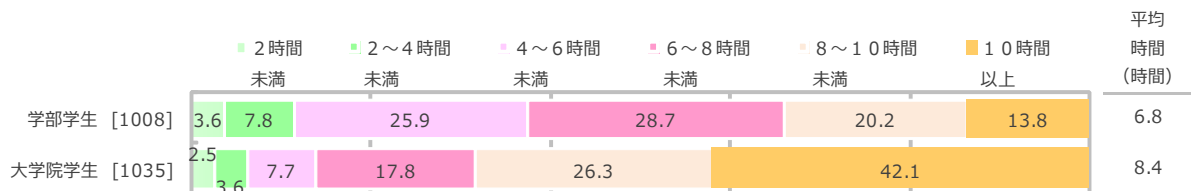
■ 授業への出席率（学部学生のみ）

- 授業への出席率は、「90%以上」が 74.7%で、平均出席率は 85.4%である。



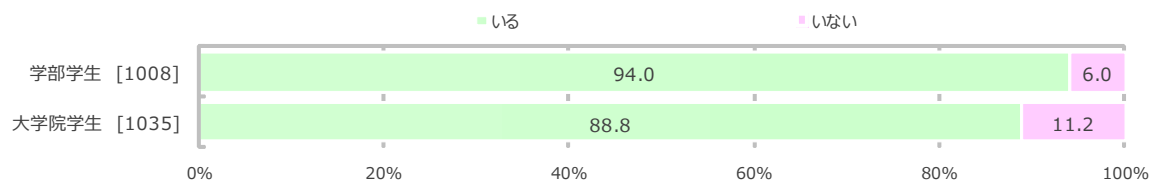
■ 大学で過ごす一日の平均時間

- 大学で過ごす一日の平均時間は、学部学生で 6.8 時間である。
- 大学院学生は、学部学生に比べやや滞在時間が長く、平均時間は 8.4 時間である。



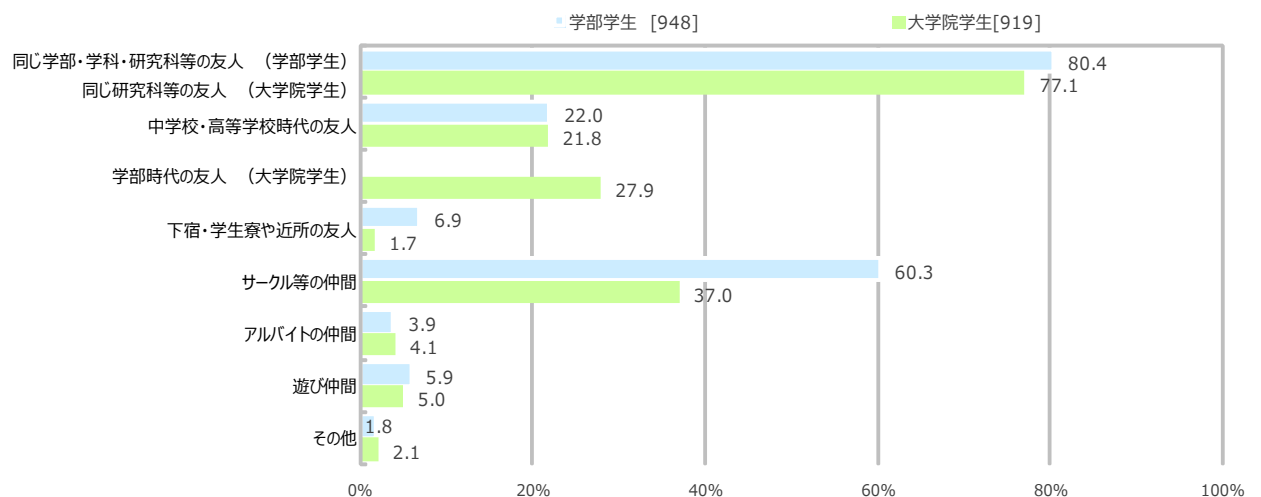
■ 仲の良い友達の有無

- 仲の良い友達が「いる」学生は、学部学生で 94.0%、大学院学生で 88.8%である。



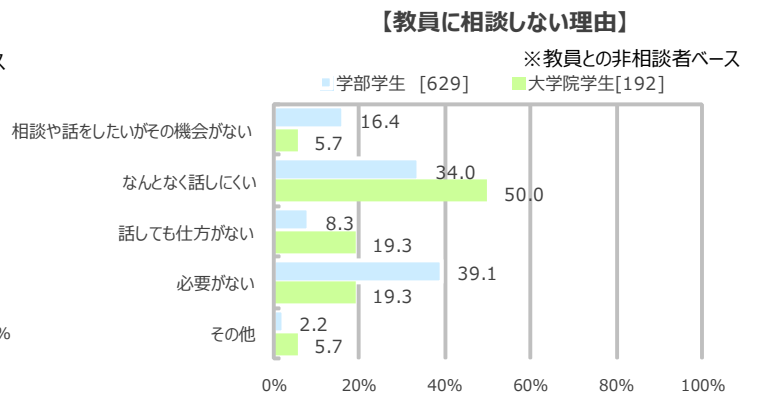
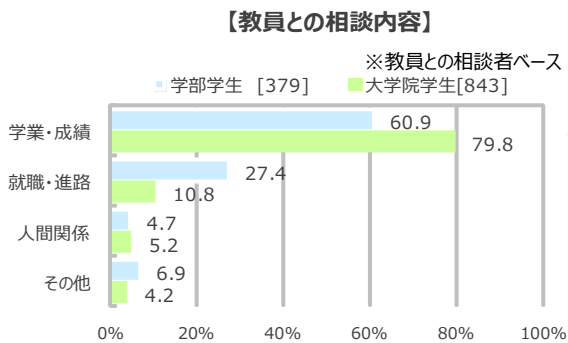
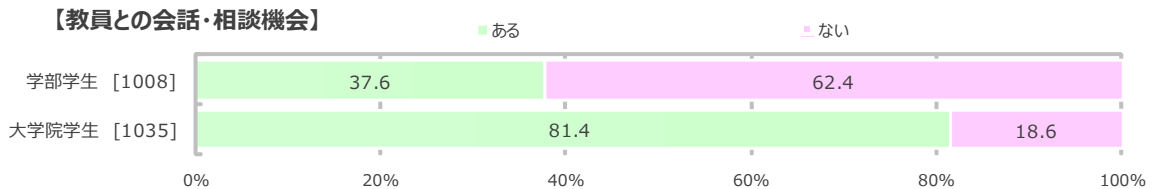
■ 友人との関係

- 学部学生・大学院学生ともに「同じ学部・学科・研究科等の友人」が最も多く、次いで「サークル等の仲間」である。
- 「サークル等の仲間」については、学部学生が 60.3%であるのに対し、大学院学生は 37.0%と大きく差がある。



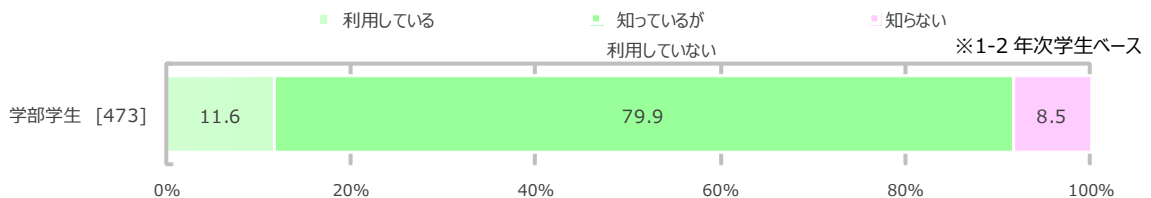
■ 教員との関係

- 教員との会話・相談機会が「ある」学生は、学部学生で 37.6%、大学院学生で 81.4%である。
- 相談内容は、学部学生・大学院学生ともに「学業・成績」が最も多く、大学院学生(79.8%)が学部(60.9%)を 2 割程度上回る。
- 相談しない学生の理由は、学部学生で「必要がない」(39.1%)や「なんとなく話しにくい」(34.0%)が多い。大学院学生は、「なんとなく話しにくい」が半数を占めている。



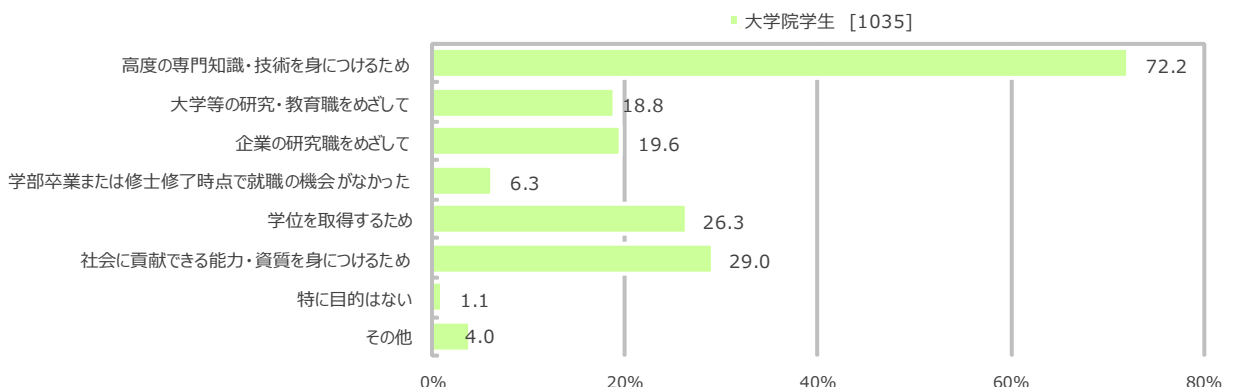
■ アカデミック・サポートセンターの認知利用状況（学部学生のみ）

- アカデミック・サポートセンターを現在「利用している」学生は 11.6%。「知っているが利用していない」学生も加えると認知率は、91.5%である。



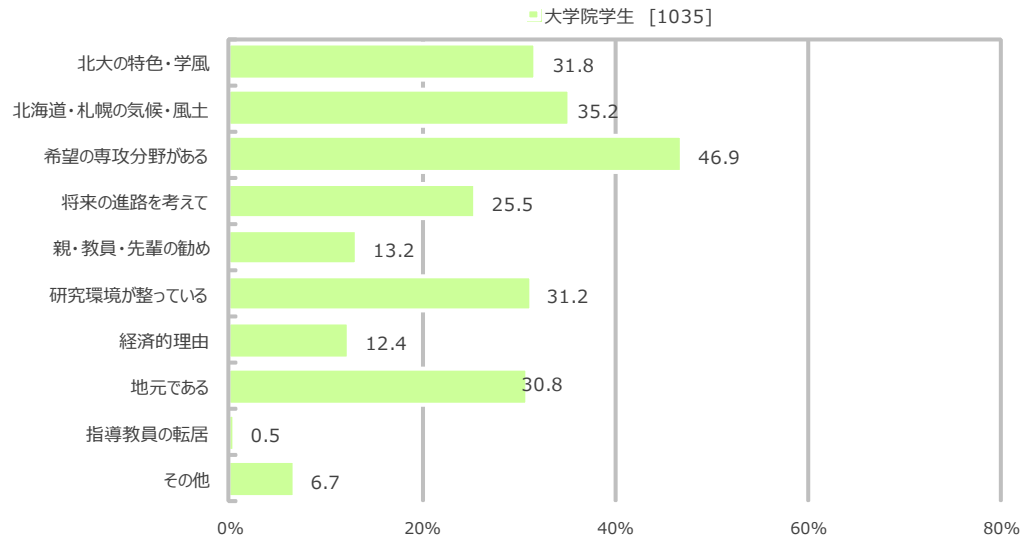
■ 大学院入学の目的（大学院学生のみ）

- 大学院入学の目的は「高度の専門知識・技術をつけるため」が 72.2%と最も多く、次に「社会に貢献できる能力・資質を身につけるため」(29.0%)、「学位を取得するため」(26.3%) が 2 割台後半で続く。



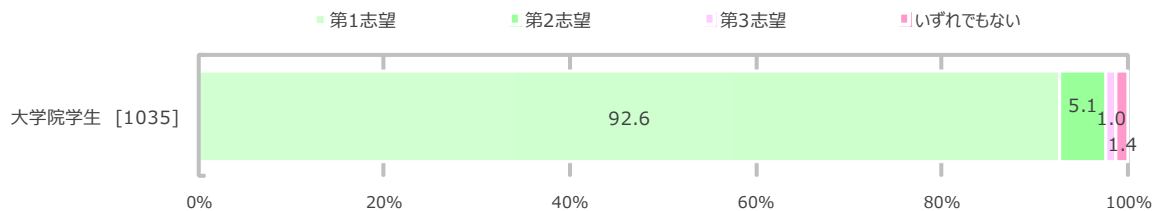
■ 北大大学院を志望した理由（大学院学生のみ）

- 北大大学院を志望した理由は、「希望の専攻分野がある」が46.9%で最も多い。



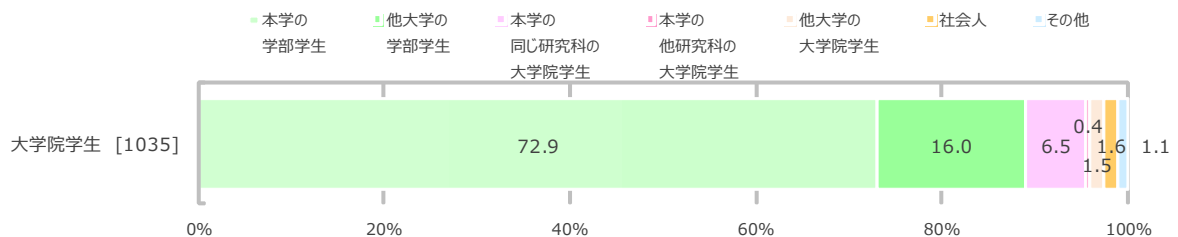
■ 北大大学院の進学時の志望順位（大学院学生のみ）

- 進学時の志望順位は、「第1志望」が92.6%である。



■ 大学院入学前の出身大学等（大学院学生のみ）

- 「本学の学部学生」が72.9%と最も多く、次に「他大学の学部学生」（16.0%）が多い。

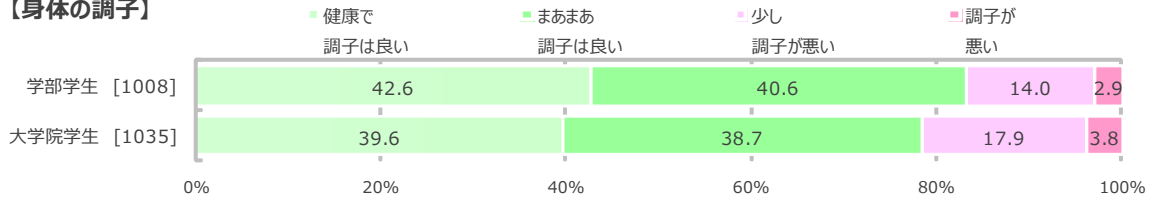


I 健康状態

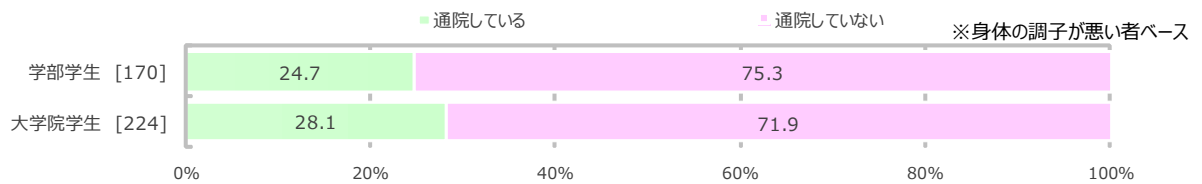
■ 身体の調子／通院状況

- 学部学生は、「健康で調子が良い」が42.6%で、「まあまあ調子が良い」（40.6%）を含めると83.2%である。
大学院学生では、「健康で調子が良い」が39.6%で、「まあまあ調子が良い」（38.7%）を含めると78.3%である。
- 「通院している」学部学生は24.7%、大学院学生は28.1%である。

【身体の調子】



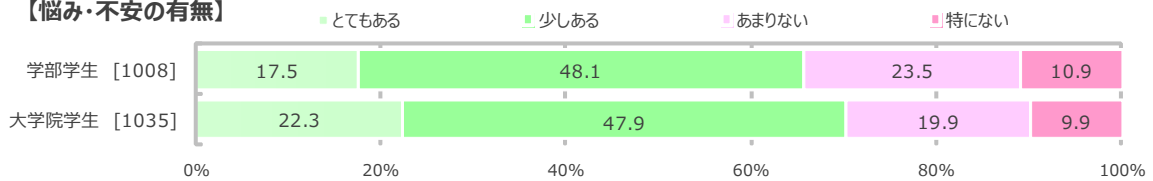
【通院の有無】



■ 悩み・不安

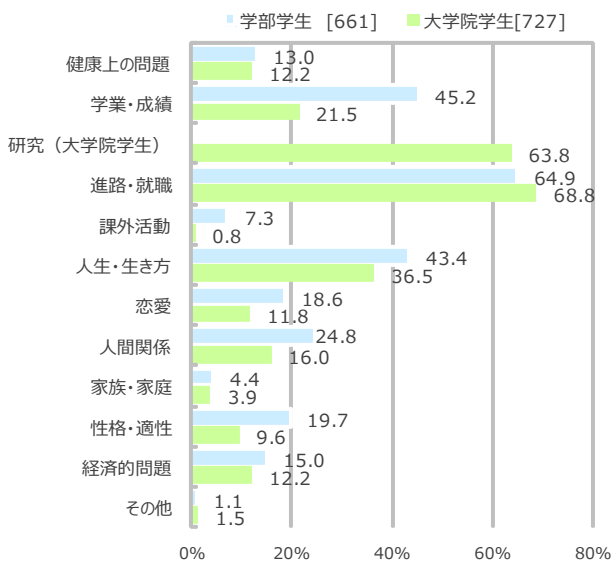
- 悩み・不安が「ある（とてもある＋少しある）」学生は、学部学生は65.6%、大学院学生は70.2%である。
- 悩み・不安の原因は、学部学生・大学院学生ともに「進路・就職」が6割強と最も多い。また、大学院学生においては、「研究」の悩みも63.8%と多い。
- 相談相手は、学部学生・大学院学生ともに「北大の友人・先輩」が最も多く6割前後を占めている。次に「家族」が4割強である。

【悩み・不安の有無】

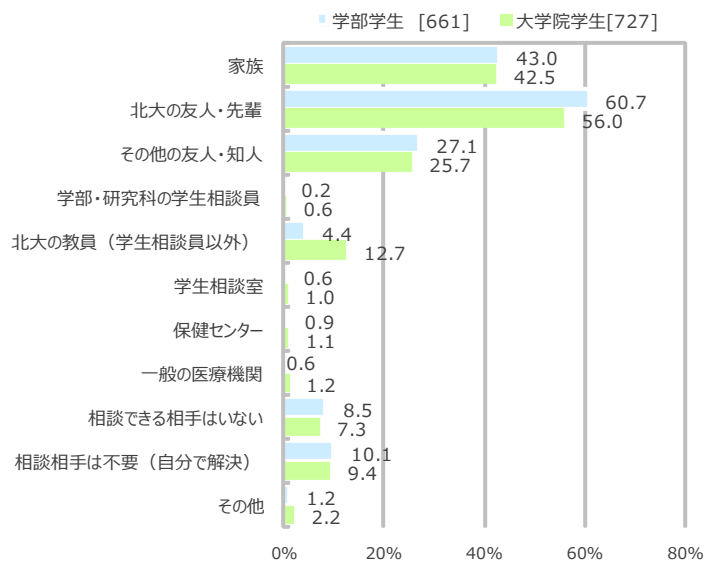


【悩み・不安の原因】

※悩み・不安がある者ベース

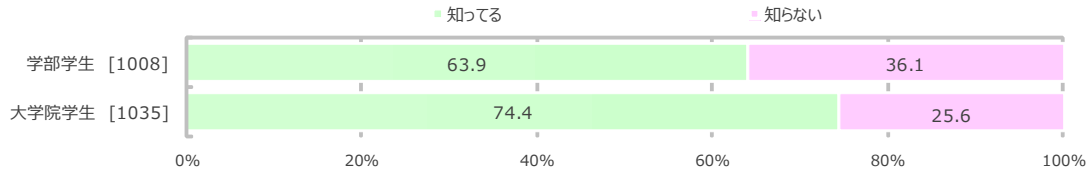


【悩み・不安の相談相手】



■ カウンセリングサービスの認知状況

- カウンセリングサービスの認知度は、学部学生が 63.9%、大学院学生が 74.4%である。



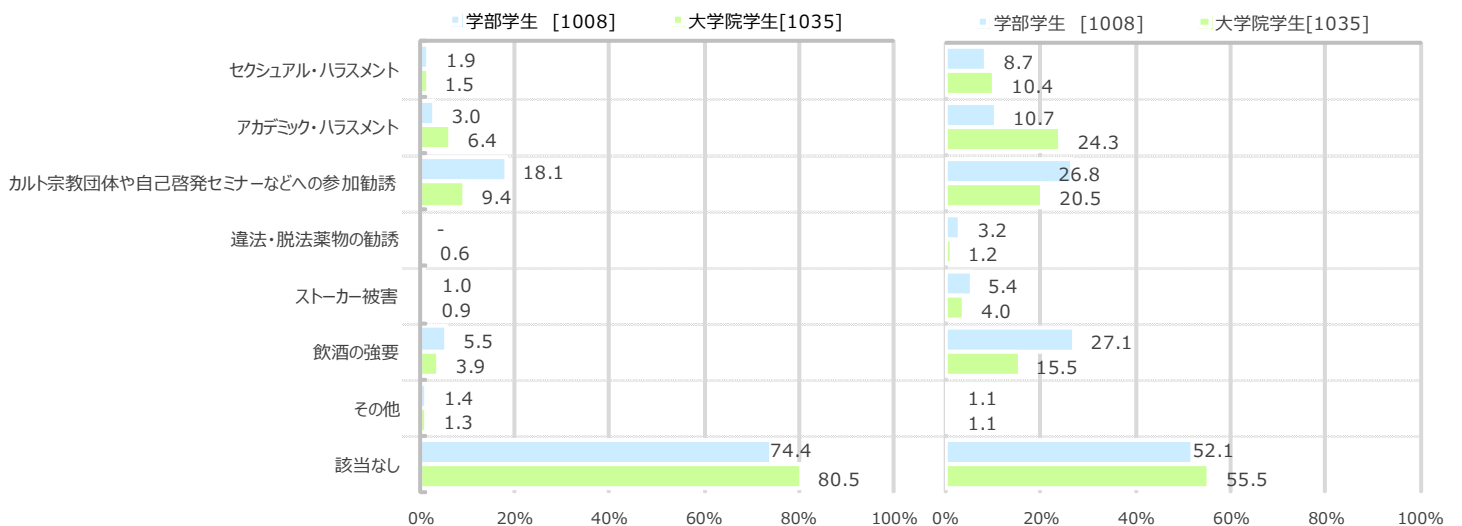
ハラスメント及びカルト宗教団体等の被害状況

■ 自身のハラスメント等の被害経験／他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験

- 自身のハラスメント等の被害経験は、「該当なし」が、学部学生で 74.4%、大学院学生で 80.5%と大半を占めている。
 - ・「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」が、大学院学生で 1 割弱、学部学生で 2 割弱のみられる。
- 他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験は、学部学生・大学院学生ともに「該当なし」が半数以上を占めている。
 - ・「飲酒の強要」については、大学院学生が 15.5%であるのに比べて、学部学生が 27.1%もある。
 - ・「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」も、学部学生の 26.8%、大学院学生の 20.5%が見聞きしている。
- 学部学生・大学院学生ともに、自身の被害以上に、他人の被害を見聞きする割合が高い。

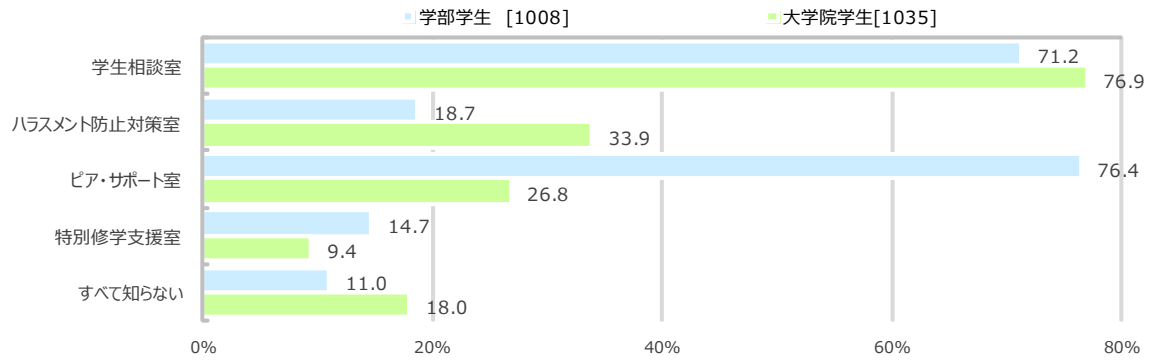
【自身のハラスメント等の被害経験】

【他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験】



■ 学生相談窓口の認知状況

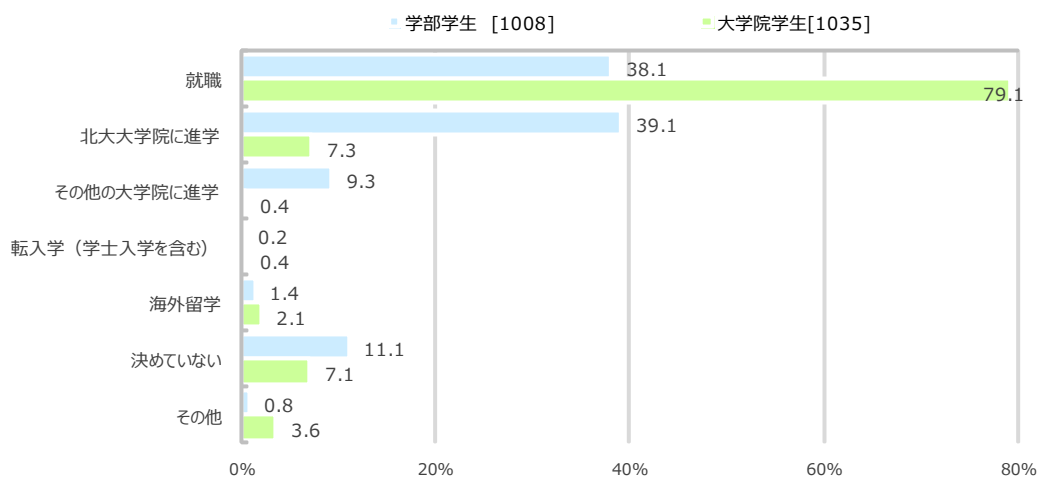
- 「学生相談室」については、学部学生・大学院学生ともに7割以上が認知している。
- 「ピア・サポート室」については、学部学生の認知率は7割以上であるが、大学院学生の認知率は26.8%に留まる。



K 進路の希望

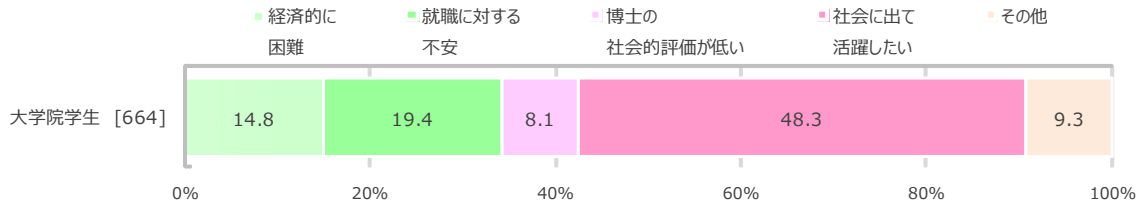
■ 卒業後の進路希望（学部学生）／修了後の進路希望（大学院学生）

- 学部学生は、「就職」（38.1%）と「北大大学院に進学」（39.1%）が同程度である。
- 大学院学生は、約8割が「就職」希望である。



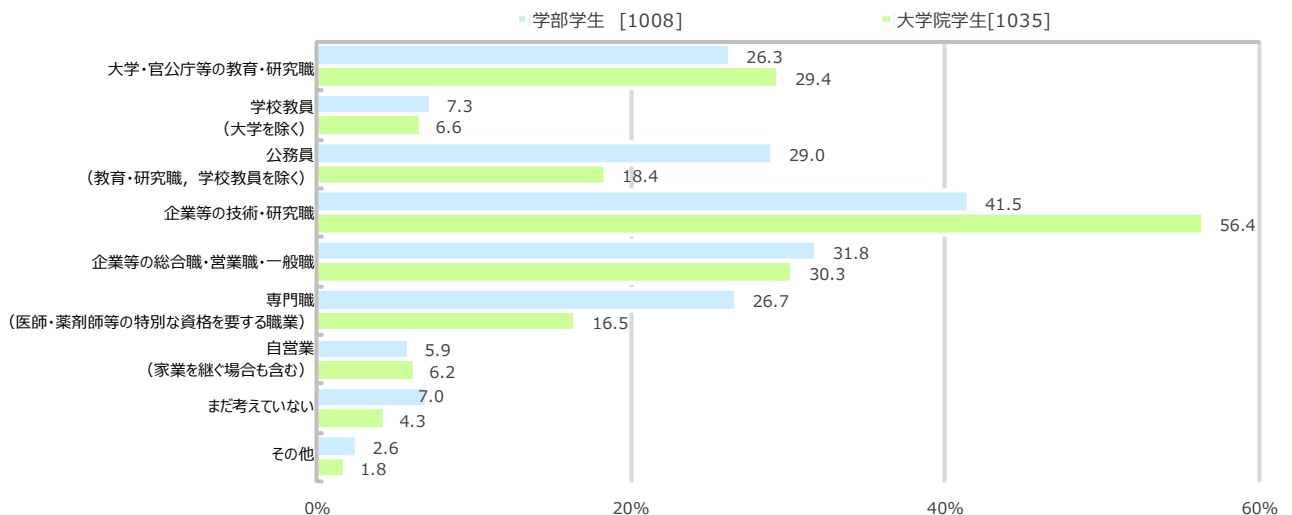
■ 博士後期課程に進学しない理由（大学院学生のみ）

- 博士後期課程に進学しない理由は、「社会に出て活躍したい」が 48.3%で最も多く、次に「就職に対する不安」が 19.4%となっている。



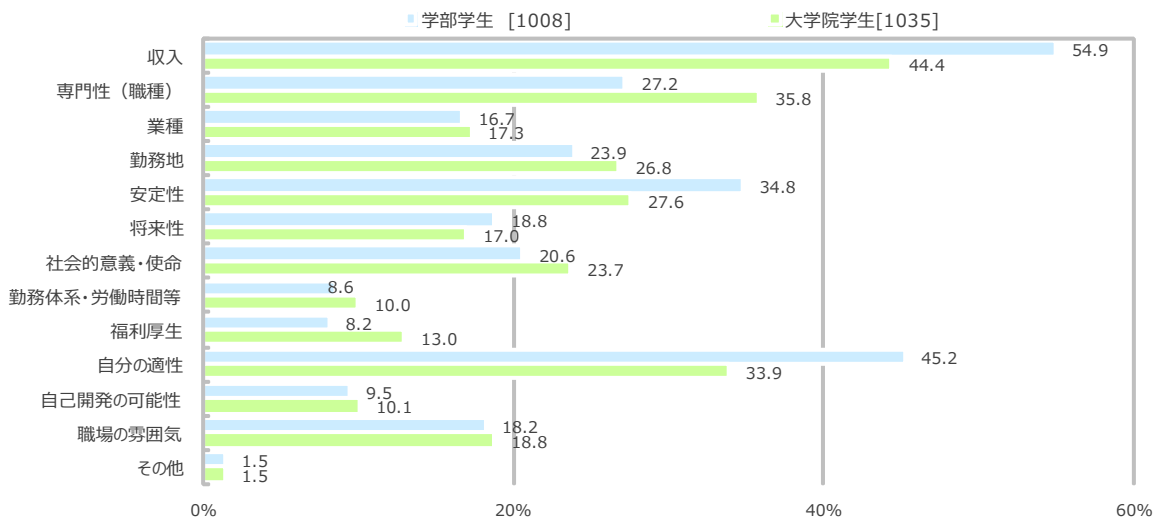
■ 希望職種

- 希望職種は、学部学生・大学院学生ともに「企業等の技術・研究職」が最も多く、学部学生に比べて、大学院学生が多い。
- 「公務員」や「専門職」は、学部学生の方が希望する者が多い。



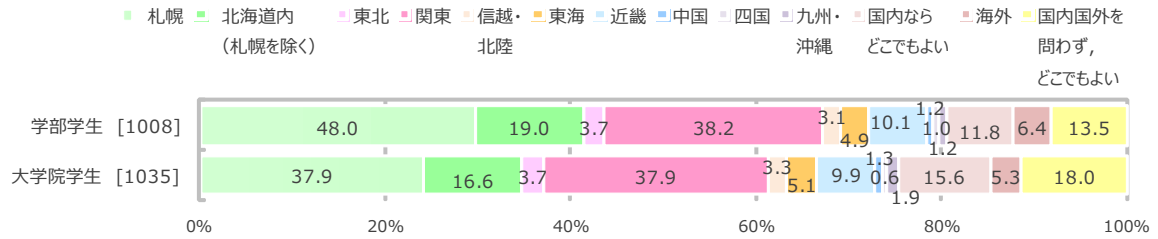
■ 就職で重要視すること

- 学部学生は、大学院学生に比べて、「収入」と「自分の適性」を重要視する傾向にある。
- 大学院学生は、学部学生に比べて、「専門性」を重要視する傾向にある。



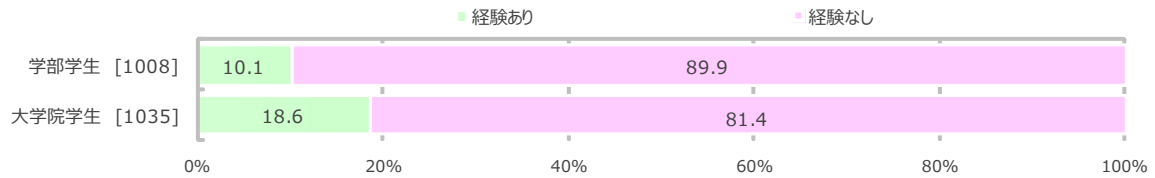
■ 就職希望地域

- 学部学生の方が、大学院学生に比べて、「札幌」を希望する割合が高い。



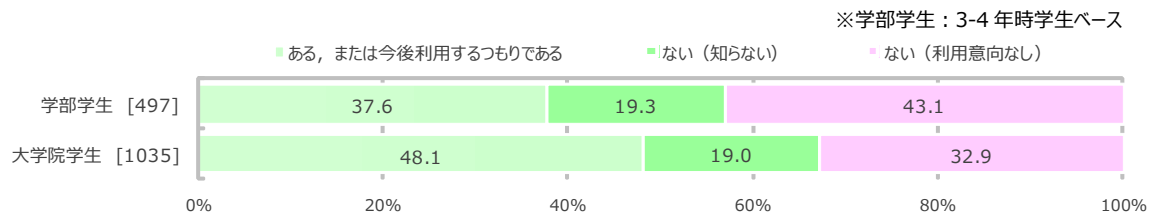
■ インターンシップ参加経験

- インターンシップへの参加経験は、学部学生が 10.1%、大学院学生が 18.6%で、大学院学生の方がやや参加経験が多い。



■ キャリアセンター利用状況

- 「ある、または今後利用するつもりである」学生は、大学院学生（48.1%）が学部学生（37.6%）を 1 割程度上回る。



2014年版北海道大学学生生活実態調査報告書（概要版）

発行日 2015年3月

編集発行 北海道大学学務部学生支援課

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

TEL: 011-706-7469